

1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。1:2 ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。1:3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。1:4 ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。今いまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、1:5 また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、1:6 また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。キリストに栄光と力が、とこしえにあるように。アーメン。1:7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。1:8 神である主、今いまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」1:9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐とにあずかっている者であって、神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。1:10 私は、主の日に御霊に感じ、私のうしろにラッパの音のような大きな声を聞いた。1:11 その声はこう言った。「あなたの見ることを巻き物にしるして、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤに送りなさい。」1:12 そこで私は、私に語りかける声を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金の燭台が見えた。1:13 それらの燭台の真ん中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。1:14 その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のようであった。1:15 その足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであり、その声は大水の音のようであった。1:16 また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。1:17 それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。1:19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。1:20 わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。

1-3 節には、黙示録の紹介が記されています。先週のメッセージを聞けなかった人のために、ここで黙示録についての3つの質問をしたいと思います。

質問 1：この幻はどこから来たのでしょうか。

1 節には、父なる神がこの書の内容をイエス・キリストにお与えになり、キリストが御使いに託して、使徒ヨハネにそれを告げられたとあります。この書が神から与えられたものだと確信することが大切です。この書には、教会にとって、クリスチャンにとって、そしてイエス・キリストについての福音をまだこれから心に受け入れようとしている人々にとって非常に深く考えさせられる内容が含まれています。

私がフェイスミッションバイブルカレッジで聖書を学んだのはもう 30 年以上も前のことですが、アレック・ハーディー師という客員教授がこのようなことを言っていました。

「奇跡が起こったら、その出所を確かめる必要があります。」このように教授が言ったのは、私たちが霊的なできごとを見分ける力を得るためです。奇跡のような出来事は何でも神からというわけではありません。悪魔も、悪魔に従うよう人を惑わせるために奇跡を起こすことができます。

出エジプト記 7 : 12

彼らがめいめい自分の杖を投げると、それが蛇になった。しかしアロンの杖は彼らの杖をのみこんだ。

超自然的な事柄に関しては、見分ける力が必要です。

しかし、黙示録の書が神から与えられたものであることは確かです。

2節は、黙示録に記された内容を、ヨハネが実際に目で見たと語ります。

ヨハネの肉体はパトモス島にいましたが、神は何らかの方法で彼を天に連れて行かれました。ヨハネがそれらのことを見て、私たちのために書き残すためです。

では次の質問です。

質問 2 : この幻から恩恵を受けるのは誰でしょう。

3節には、この書を読む人は祝福されると語ります。また、この書を聞く人も祝福されるとあります。

これには、ヨハネがこの書を記した時代の教会礼拝の様式が関係しています。当時、教会が礼拝のために集まった際、ひとりの人が全員に聞こえるようにみことばを読むのが一般的でした。

(テモテ第一 4 : 13)

筆記用具は高価で貴重だったため、聖書の写本も貴重でした。たいていの場合、ひとつの教会の群れにつき、聖書は一部しかありませんでした。

ですから、神のみことばの一部を聞かせてもらえればありがたいといった状況でした。

ここに記された約束は、朗読する人と教会に集まった会衆への祝福です。

この神からの約束は今も有効です。黙示録を教える私と会衆である皆さんを神が祝福してくださいという約束です。

しかし、これは無条件の祝福ではありません。というのも、3節には、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いであると記されているからです。

読んで、聞いて、従って祝福を得るということです。この3つめの要素が現代の教会生活で欠けているものかもしれません。読んで聞いても、必ずしも従わないのです。

私たちの歩みにおいて、それが欠けた要素とならないことを願います。

ですから、神のみことばを読んで聞くだけにせず、みことばに従いましょう。

ヨハネ 14 : 21 は、大切なみことばです。イエスはおっしゃいました。「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。」

黙示録には、7つの約束が登場しますが、ここではふたつだけを紹介します。

- a) 黙示録 14 : 13 「今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。」
- b) 黙示録 19 : 9 「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ」

質問 3 : いつ起こるのでしょう。

3節には、この書が「預言」の書であることも記されています。つまり、未来の出来事をあらかじめ語ります。これは神の最後の預言のことばです。これ以降、神は信徒たちに未来について再び語られません。ですから、神から私たちへの最後のことばなのです。

また3節には、「時が近づいている」とも記されています。ここで使われているギリシャ語の単語は「カイロス」です。これは、時計で見る時間を指す単語ではありません。時代や時期を指す単語です。

言い換えると、神の贖いの歴史における次の時代となります。
イエス・キリストの再臨は近いのです。それは、神の預言の暦では次に起こる出来事だからです。
ルカ 12 : 40 は、イエスの再臨に備えるようにと教えます。
新約聖書には、イエスの再臨に関連した教えが他のどんな教えよりも多く含まれています。その
個所をここでは読みませんが、メッセージのプリントにはその個所を記しておきますので、ご自
身の学びに活用してください。

新約聖書における再臨に関連する個所

イエス・キリストご自身のことば：マタイ 24 : 30、マルコ 13 : 26、ルカ 21 : 27、マタイ 16 : 27、
25 : 31、マルコ 14 : 62、ルカ 12 : 40、ヨハネ 14 : 3,28

イエス・キリスト昇天の際に御使いが語ったことば：使徒 1 : 11

使徒たちのことば：ピリピ 3 : 20-21、使徒 3 : 20-21、コリント第一 1 : 7、11 : 26、テサロニケ第
一 1 : 10、3 : 13、4 : 16、テサロニケ第二 1 : 7、ヘブル 9 : 28

1-3 節から 3 つの質問に答えましたので、次にあいさつの部分に進みます。

2. あいさつ

最初はヨハネからのあいさつです。(4 節)

現代はあまり手紙を書きませんが、手紙を書くときはたいてい最後に自分の名前を書きます。し
かし、太古の時代は手紙の最初に自分の名前を記しました。

それで、ヨハネは自分の名前を記し、誰に宛てて書いた手紙なのかも明かします。

この手紙は 7 つの教会に宛てて書かれました。

これら 7 つの教会はアジア地方にありました。アジア地方は現在のトルコにあたります。

次のあいさつは、三位一体のお方からです。(4-5 節)

ヨハネは私たちが理解できるかたちで神を表現しました。過去、現在、未来という時間の広がり
を用いたのです。神は過去の神であり、現在の神であり、未来の神であります。

ヨハネは 7 つの御霊と記しますが、これは聖霊のことです。しかし、聖霊が 7 つあるということ
ではなく、7 が神の完全な性質をあらわす数字だからです。

(イザヤ 11 : 2 参照)

そして、イエスからのあいさつがあります。(5 節)

3. イエスの呼称を改めて紹介する。(5 節)

イエスは「忠実な証人」と記されています。それは、常に真理を代弁する人です。

また、「死者の中から最初によみがえられた方」とあります。これは、イエスの復活を指します。

そして、「地上の王たちの支配者」とあります。

この呼称は、イエスが地上のすべての出来事に絶対的な権威を持つことを示します。日本には総
理大臣がおり、世界中の国にはそれぞれ政府があり国家元首がいます。

イエスはこれらすべての政府に権威を持つお方です。

人々はこの事実を認めようとはしないかもしれませんが、聖書が語ることですので、これは真実
です。

この真実は、聖書の随所で繰り返されています。

詩篇 2 : 6-8

2:6 「しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。」 2:7 「わたしは【主】の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。 2:8 わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。

ヨハネはイエスの御業を読者に思い起こさせることばであいさつを締めくくります。(5節)

1. イエス・キリストは壊れない愛で私たちが愛してくださる。
ローマ 8 : 35-39
8:35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。 8:36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。 8:37 しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。 8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、8:39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちが引き離すことはできません。
2. イエスは、ご自身の血によって私たちが罪から洗いよめてくださった。
これは、福音のメッセージを指しています。罪人は、イエス・キリストが十字架上でささげられた犠牲によって神から赦しを受け、死と地獄から解放されます。イエスは身代わりのいけにえです。
3. イエス・キリストは、私たちが祭司としてくださった。
そのおかげで、私たちは直接神とつながる特権を得ました。新しく生まれた信徒であれば、神は聖書をとおして私たちに語りかけてくださいます。また、私たちが置かれた場所で神の働きに用いてくださいます。信徒の祈りも牧師の祈りと同じ力があります。

4. 天におられるイエスのまぼろし (9-20節)

ヨハネは、御霊に感じ幻を受けたとあります。これは、通常の人間の理解を越えた経験を意味します。

エゼキエル、ペテロ、パウロも似た経験をしました。

(エゼキエル 2 : 2、3 : 12、使徒 10 : 9、22 : 17)

ヨハネは、主の日に幻を受けました。それは、ラッパのような大きな声に聞こえました。黙示録では、「大きな声」が何か神聖で大切なことが起ころうとしているというしるしです。他にも 15 個所でこのような使われ方がされています。

ヨハネは、自分の目を見たことを書き記すように命じられました。これが書き記すように命じられた最初の場面です。この書には、書き記すように命じることばが 12 回登場します。そして、一度だけ、彼が見たことを記さないようにと命じられます。それは、10 章 4 節に登場します。

そして、書き記したものを 11 節に挙げられた 7 つの教会に送るように命じられます。

黙示録 1 : 11

1:11 その声はこう言った。「あなたの見ることを巻き物にしるして、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤに送りなさい。」

12-16 節には、ヨハネが見たことが記されています。

イエスのご自身の教会を強められる（助けられる）。（12-13 節）

ヨハネは7つの金の燭台を見ました。20 節によると、これは7つの教会を指します。燭台は、夜に部屋を照らす持ち運びのできるオイルランプで、当時は一般的でした。ピリピ 2 : 16 は、世の中で光のように輝きなさいと教会に勧めます。

金はもっとも貴い貴金属です。教会は、イエスにとってもっとも尊いものです。ご自身の血をもって贖われたほどです。教会とは神の民です。皆さんはイエスにとって尊い存在であることを確信してください。

7は完全をあらわす数字です。すべての教会がここで登場する教会の型に示されています。私たちは黙示録のどの教会の型に示されているのでしょうか。これは私たちの課題です。忠実な教会であってほしいものです。神の助けによって、OIC の私たちが黙示録に記された「忠実な教会」となれますように。

ヨハネは、燭台の真ん中に、「人の子のような方」を見ました。

これは、ご自身の教会の真ん中におられるイエスです。

イエスは、地上におられたときに、ご自身の民を決して離れないと約束してくださいました。

（マタイ 28 : 20）

ここで、イエス・キリストがご自身の教会を強めておられる姿が描かれています。

クリスチャンは、殉教者や有名な故人を礼拝しているのではありません。

クリスチャンが礼拝するのは、生きておられるキリストです。このお方は、教会である人々のうちに住まれ、導き、力を与えてくださいます。

ですから、イエス・キリストは私たちの人生に力を与え、OIC での私たちの働きも強めてくださいます。

使徒パウロはピリピ 4 : 13 で「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」と言いましたが、そのとおりです。神のみことばである聖書を心から信じ、祈ることをとおして、私たちは主の力を得ます。

イエスのご自身の教会のために祈られる。（13 節）

13 節で、ヨハネはまずイエスの身につけておられるものに注目します。イエスは足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めておられました。

最初のギリシャ語の聖書では、ここで登場する「衣」と、大祭司が着る装束とは、同じ単語が使われていました。

大祭司は常に金色の胸当てを付けていました。

ヘブル 7 : 25 は、イエスがいつも生きておられ、ご自身の民のためにとりなしておられると語ります。

私たちが黙示録を学ぶときも、日本で生活し、働くときも、イエスは私たちのために祈ってくださいます。

そのひとつはヨハネ 17 章に記されているとおり、一致についてです。

イエスが私たちのために祈ってくださると知ると、生きるのがつらいときにも慰められ、元気づけられます。

イエスはご自身の教会をきよめられる。（14-15a 節）

ヨハネは、イエスの身につけておられるものについて記した後、イエスご自身について記します。

ヨハネが記した内容は、イエスがご自身の教会を訓練しきよめられることに相似しています。そして、イエスの教会とは私たちのことです。

イエスは、私たちにきよめの過程を通らせ、聖なる者としようとなさいます。

ご自身が愛しておられる人々を躰けられるからです。

新約聖書は、イエスが望まれる教会の姿について教えます。

マタイ 5:48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。

エペソ 5 : 25-27

5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。 5:26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、 5:27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

ペテロは、裁きが神の家から始まると言いました。（ペテロ第一 4 : 17）

ですから、OICにいる私たち全員に聖霊に協力する責任があります。イエスは私たちをきよめ、神の栄光のために取っておかれたものにしようとなさっています。

聖霊のきよめの火を通るのは生易しいことではありませんが、この経験をとおして、自力ではできない素晴らしい結果が生まれます。

ここで、生きた証をお分ちします。皆さんの励みになればと思います。

私の父は非常に短気な人で、私も子供のころよく虐待を受けました。ののしられたり、暴力を振るわれたりしました。私自身、父の短気な気性を受け継いでいると思います。30年以上前にバイブルカレッジに通っていた当時、私の短気な性格が良くないことを聖霊に示されました。私は、怒りっぽい性格をなんとか変えたいと思いました。

ある夜、私はひざまずいて神に祈りました。聖霊がこの怒りっぽい部分を取り去ってくださるようにと祈りました。長い間祈りつづけ、ヨハネ第一 1 : 9のみことばを神に向かって唱えました。そして、神の助けが必要だと告白しました。

そうすれば、きっと天からの光が差し、神にすばらしい体験をさせてもらえると期待していましたが、そんなことは起きませんでした。それで、ただ神とみことばを信じ、私の心の中で働いてくださったと信じることにしました。

二日後、いつもなら短気な性格が刺激され、怒りがこみ上げてしまうだろう出来事が起こりました。けれども、私の心は穏やかで、いつものように腹を立てませんでした。そのとき、信仰によって、神は私の短気を取り扱われ、解放してくださったと気づきました。もう30年以上も前のことです。

皆さんも、変わりたい部分があるかもしれません。神は、悪癖や欲望からあなたを解放することのできるお方です。

私たちは天国に行くまで完ぺきになることはありません。けれども、神が望まれる部分において、私たちが神の望まれるかたちで完成されることは可能です。

聖霊に良くない部分を示されたなら、神がその部分を取り扱ってあなたを解放することがおできになるということです。

この14節に記されたイエスの頭と頭髪の様子に注目しましょう。

これは、ダニエル 7 : 9 に記されていることと同じです。

ダニエル 7:9 私が見ていると、幾つかの御座が備えられ、年を経た方が座に着かれた。その衣は雪のように白く、頭の毛は混じりけのない羊の毛のようであった。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、

その目は、物事を深く探られるイエスの目を示しています。

(マタイ 10 : 26—おおわれているもので、現されないものはなく、)

15 節には、イエスの足は炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようだとあります。これはどういう意味でしょう。

古代の王たちは、高い場所に設けられた王座に座しました。

それで、王の裁きを受ける人々は常に王の足よりも下にいました。

こうして、王の足は権威の象徴となりました。

赤く燃える熱いイエスの足は、教会のきよめを实践なさるイエスの姿を象徴しているのかもしれませんが。

ヘブル 12 : 5-10

12:5 そして、あなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていません。

「わが子よ。主の懲らしめを軽んじてはならない。主に責められて弱り果ててはならない。 12:6 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」 12:7 訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるのでしょうか。 12:8 もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです。 12:9 さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちを懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。 12:10 なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自身の聖さにあずかせようとして、懲らしめるのです。

私たちが生きているのは、イエスがご自身の教会をきよめられる時代です。

残念ながら、多くの教派が神のみことばに忠実であることから離れていっています。その結果、教団を離れて新しい単立教会を創立する教会も出てきました。これは現在、英国、とくにスコットランドで起こっていることです。スコットランド国教会が同性愛者の聖職者や同性婚を認める議決をしたことで、福音的な聖職者たちの間で独自の教会を形成する機運が高まりました。このような教会は神の祝福を受け、成長を続けています。

神のみことばを妥協すると、必ず教勢が衰えます。神のみことばに忠実であれば、その教会に祝福が与えられます。

世間の道徳観がどれほど墮落しても、OIC では神のみことばを妥協しないと堅く決意しましょう。

イエスはご自身の教会を治め、守られる。(16 節)

最後に、イエスが 7 つの星を持っておられる個所に進みましょう。

20 節で、7 つの星の意味が解き明かされています。新改訳では「御使い」となっています。現代ギリシャ語の訳によると、この単語は「使者」となっています。

正しく翻訳されたものであれば、使者と関連付けた訳になっているはずですが。

この使者たちは、イエス・キリストが教会を治めるために用いられる器です。

天使は教会を運営しないので、私は使者という訳を選びます。

7 人の使者について、ある聖書解説者は、7 つの教会の牧師や長老を指している可能性があると言います。

これらの 7 人の使者は、教会の霊的指導者の役割を果たします。

教会のかしらであるイエス・キリストは、この器をとおしてご自身の教会を治められます。

ここにふたつの課題があります。ひとつは教会の指導者に対して、そしてもうひとつは指導者の下で動く会衆に対してです。

指導する立場にある人は、高い規範を持ってイエスのみこころを实践するという責任をいただきます。

一方、会衆は、指導者に抵抗することは、イエスご自身と教会に対するイエスのみこころに抵抗することであるという認識を持たなければなりません。

イエスの口から出ている両刃の剣については、19章で解き明かされています。剣は教会を守るために用いられます。

19章の該当の個所で、教会の外からやってくる脅威から教会を守るために剣が使われています。

サタンは常に、嘘で教会をだまして分裂させようとします。そして、分裂を起こす人たちを用いて、教会を弱らせようとします。しかし、イエスはこれらのものから教会を守ってくださいます。

最後に、イエスの顔について記されています。

「顔は強く照り輝く太陽のようであった。」

これらのことにヨハネはどう反応したでしょう。私たちはどう応答するでしょうか。

ヨハネはその足もとに倒れて死者のようになったと語ります。私たちも同じ体験をしたら、きっと同じように反応するでしょう。

イエスが生きておられること、そしてイエスが次に挙げるようなお方であることを心にとめると、力づけられます。

1. イエスは、教会での奉仕のための力を与えてくださる。
2. あなたがその方向に進んで行くなら、イエスは、あなたのために祈ってくださる。
3. イエスは、あなたの人生をきよめようとなさる。
(これについて、今日祈りが必要ではありませんか。)
4. イエスは、教会の指導者をとおして働かれる。
5. イエスは、教会に害を及ぼすものから教会を守ってくださる。

イエスはおっしゃいました。「わたしは…わたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」(マタイ 16:18)